

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2674000209
法人名	社会福祉法人 未生会
事業所名	グループホーム ラポール嵐山
所在地	〒616-0014 京都市西京区嵐山谷ヶ辻子町38-2 (電話) 075-873-3788

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成20年6月3日

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	29 人	常勤	11 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 12.38 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC造り
	3 階建ての 1 階～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() / ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日 1500円			

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	シミズ病院、内田病院、本田歯科医院、第二酒井診療所、吉井クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

嵐山という日本でも有数の観光地にあるが、住宅街の静かなホームである。社員寮の改築というハードの困難さは免れないが、職員のさまざまな工夫と努力で家庭らしさをつくりだそうとしている。開設7年にして最近では地域にも認識され、地域住民との交流も深まっている。徘徊する利用者とかかわりから交番の巡査が運営推進会議に参加してくれたり、警察署が認知症サポーターの教室を開催することになりその講師に招聘されたり、利用者が近くの公園の掃除を依頼されたり等々、ネットワークがひろがっている。管理者やリーダー層は認知症ケア専門家もあり、認知症ケアの力が強く、理念である「その人らしい暮らし」にしたがって毎日の暮らしをくみだてている。職員は介護を楽しんでいる、チームワーク良く働いている。外出には力を入れており、散歩、ドライブをはじめ、利用者の思い出の場所への同行もある。その結果利用者は表情があり、自由にふるまっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前2回の評価で指摘された点として、調理の方法と盛り付け、口腔ケアに関しては改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員が全員かかわってまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は要綱を作成し、メンバーからは就任承諾書をいただいて、2か月に1回開催している。利用者、自治会代表、地域住民、民生委員、地域の交番の巡査、地域包括支援センター職員、婦人会役員等々がメンバーとなっており、グループホームからの活動報告がおこなわれている。議事録も適切に残されている。会議で出された意見には積極的に対応している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会がつくられており、年2回開催されている。ホームからはケアプランの説明と活動報告をしている。家族会の際にアンケートを書いていた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、行事の参加や地藏盆への協力をしている。ボランティアの受け入れは多く、地域住民が来訪することが増えてきている。元気な利用者は近くの公園の掃除をしている。近くのマンションの小学生が遊びにくる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて、職員が話し合い、「その人らしく暮らせるよう支援する」を定め、スタッフ室に掲げている。グループホームの意義を踏まえたものであり、誰にもわかりやすい理念である。これをパンフレット、契約書、重要事項説明書等にも明記するとともに、ホーム内にも大きく掲示し、利用者や家族にも周知をはかることが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念に基づいて、仕事に誇りと責任をもつことや地域社会の発展に貢献することなどの介護職員としての基本を定めている。さらに、業務を始める前に確認する点が6点示されており、いずれもスタッフ室に明記されている。理念を話し合うなかで職員の意識変革がおこり、自発的な発想が生まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事の参加や地藏盆への協力をしている。ボランティアの受け入れは多く、地域住民が来訪することが増えてきている。元気な利用者は近くの公園の掃除をしている。近くのマンションの小学生が遊びにくる。将来的には利用者が地域のクラブやサークルに参加していくことが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員が取り組み、まとめている。前2回の評価で指摘された点のうち、食事の調理方法や盛り付け、口腔ケアの2点は改善されている。契約書に権利義務の明記、ホーム便りの発行は現在進行中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は要綱を作成し、メンバーからは就任承諾書をいただいて、2か月に1回開催している。利用者、自治会代表、地域住民、民生委員、地域の交番の巡査、地域包括支援センター職員、婦人会役員等々がメンバーとなっており、グループホームからの活動報告がおこなわれ、議事録も適切に残されている。会議で出された意見には積極的に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京都市西京区の介護保険課係長とは必要に応じて連絡をとっている。ただ現在のところ、介護教室や介護相談などの共催事業は行われていない。西京区内の介護保険事業所が連絡調整会議を開催しており、参加している。	○	地域には在宅で認知症高齢者を介護している人など多いと思われるので、区介護保険課との連携により、認知症の専門家として、介護相談や介護教室などを開催することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書とともに利用者の様子を書いた手書きの便り、写真、預かり金報告を送付している。手紙には利用者のささいなことでも見逃さず書くようにしており、家族から喜ばれている。職員の異動については家族が関心が高いので、報告することが期待される。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がつくられており、年2回開催されている。ホームからはケアプランの説明と活動報告をしている。家族会の際にアンケートを書いていたが、意見はあまりない。ホーム便りは発行されていない。	○	家族は基本的に意見を言いにくいということ、また家族との協力によりホームを運営したり、利用者のケアをおこなったりするという発想により、家族から意見や苦情をさらに聞きだす工夫が求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は多くの事業を八木町で展開しており、当ホームの職員とは通勤の関係上、基本的に異動はない。職員が退職のときは本人が利用者へ挨拶しており、また新人も紹介している。何人かの退職が同時にならないように工夫している。今年4月に1階と2階の職員の入れ替えを行い、互いの交流が進んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年6回おこなわれ、新採用職員のみならず現任職員にも実施されている。レポートは義務付けられており、職員は提出している。外部研修は認知症実践者研修、リーダー研修をはじめ、コミュニケーション技術、リスクマネジメント、苦情解決、スーパービジョン等々に参加している。資格取得にも支援している。認知症ケア専門士の資格をとった職員もあり、リーダー層が育成されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府内のグループホーム協議会とグループホーム連絡会に加入し、交流と研修に参加している。職員同士の交流は徐々に進んできている。グループホームメイプルリーフとは一緒にクリスマス会などをしており、利用者の交流がある。利用者の交流と職員の交流が今後も一層進むことが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	試し利用やショート利用の制度はなく、利用者に家族と共に何度も来訪してもらい、職員と顔なじみになってもらうようしている。利用開始後はそれまでの生活の継続をこころがけており、使っていたもの持込、それまで楽しんでおられたサークルにお連れする、かかりつけ医の受診に同行する、等々の支援をおこなっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長年人生を生きてきた人から教えられることは多いことを職員は認識している。利用者とは介護する人と介護される人という関係ではないことを管理者は深く認識している。ともすれば職員は「してあげる」など、職員側が利用者の生活をつくってしまうことがあり、注意を促している。利用者の内職をしたいという希望により、売れるものをつくりたいときれいな和紙で「黒文字入れ」を作り、近くの交番において観光客にあげようと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると、訪問面接により、生活環境、家族構成、サービス利用状況、医療情報等々が蒐集されている。利用開始直前の情報は多いが、生活歴の蒐集は少ない。現在東京センター方式のアセスメントに挑戦している。	○	利用者の生活歴を詳細に聞き取ること、利用開始時には困難でも、毎日のケアの過程で職員が意識して聞き出すこと、家族にも積極的に協力してもらうこと、古い写真等も蒐集することなどが求められる。
2. 本人がよりよく暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントはホーム長、主任、担当職員がおこない、利用者や家族の意向を踏まえて、ケアプランの案をつくり、全職員から意見を聞く。必要な修正のうち、利用者や家族から意見を聞き、同意をいただく。利用者や家族は漠然とした希望を述べているが、ケアプランは毎日の生活の楽しみを中心に作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは状態変化のときと3カ月に1回おこなっている。見直しにあたってはホーム長、主任、担当職員が評価をおこなっている。介護日誌がケアプランにそったものではなく、また利用者の反応の記載も少ないので、評価の根拠が確認できない。新たなケアプランのためにアセスメントはおこなっていない。	○	ケアプランの見直しにあたって行われる評価は、職員の観察を出し合って会議で検討しているが、介護日誌がケアプランに沿って記録され、利用者の反応を職員が把握し、記録され、それが評価の根拠となることが求められる。またケアプランの見直しにあたっては新たなアセスメントが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショート利用はしていない。利用者の通院同行や理美容院への同行はおこなっている。近くの小学生が学童保育のように、毎週土曜日来訪し、利用者とは交流することを受け入れている。また利用者が近くの公園の掃除を積極的に引き受けている。これからは地域の高齢者が来訪して利用者とともにお茶をしたりすることが期待される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は支援している。連携医療機関から内科医は月2回、歯科医は月1回、訪問看護は月3回、それぞれ往診してもらっている。認知症専門医との連携が期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化ケアに関する指針を作成しており、家族とは契約時にはもちろん、その後も定期的に意思確認をしている。何人かの家族はホームでお願いしたいという意向をもっている。現在のところターミナルケアの経験はまだない。同法人のグループホームでの経験を学んでいるが、職員には不安が大きい。看護師は24時間オンコール、医師には判断を仰ぐなどの協力をお願いしている。		
回					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護方針は策定されており、職員からは誓約書をとっている。トイレ誘導などの声かけには十分注意している。ハードの問題として、トイレにドアがなく、カーテンとなっている。	○	ハードの問題ではあるが、トイレはプライバシーの最重要問題であることを考慮し、引き戸などの工夫が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は7時半から、夕食は6時から、と大体の日課は決められているが、利用者のペースで生活してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は近くの店に毎日行っている。調理や盛り付け、配膳は利用者も共におこなっている。献立は和風でご飯を中心に季節感があり、高齢者が食べ慣れたものとなっている。味のメリハリもあり、陶器製の食器に盛り付けられ、職員も一緒に食べている。毎月の外食にはホテルのディナーや居酒屋など、希望に応じている。ホームの庭や嵐山公園でバーベキューをすることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった曜日、時間帯の入浴であるが、希望があれば、毎日の入浴や夜間入浴にも応じている。マンツーマンの介助で、希望者には同性介助をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみは多くの利用者が、また玄関にブロックを積んで花壇をつくる、八木町で畑をする、玄関に見事に生け花を生ける、行事のときに挨拶をする等、生活歴から引き出された役割が果たされている。楽しみとしては書道、外出、歌等がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園などへの散歩、スーパーへの買い物や喫茶店へは毎日出かけている。舞鶴や亀岡、高雄などへのドライブ、金閣寺、竜安寺、天竜寺、伏見十石舟等へのお出かけ、京都コンサートホールや南座での顔見世興行等々、毎週のように楽しいお出かけが実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、非常口、2階からの非常口等々、鍵はすべて掛けられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年1回おこなっている。災害時マニュアル、夜間想定避難訓練、消防計画、地域との協力協定書、備蓄等々は今後の課題となっている。	○	2階にも居室があることから、火災時の避難訓練は少なくとも年2回、夜間想定訓練も含めて行うとともに、災害時マニュアルの策定、地域住民との協力協定書の締結、食料や防災グッズの備蓄などが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の利用者一人ひとりの食事摂取量は業務日誌に書かれているが、水分摂取量は夜勤帯のみの記録である。法人の管理栄養士に献立のチェックを受けているが、カロリー値やコメントの記録は残されていない。	○	利用者の水分摂取量の記録をとること、管理栄養士に献立のカロリー値および栄養バランスについてコメントを書いてもらうことが望まれる。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道から玄関まではプランターに花が植えられ、玄関ドアも家庭的である。ドアを開けると正面に大きなガラスの花瓶にきれいに花が生けられており、壁に掛けられたキルトの飾りが和らかい雰囲気を作り出している。食堂兼居間にある食卓、椅子、食器棚等、家庭と変わらない。年代物の大きな古時計が心を和ませる。廊下には畳み敷きの座り台、籐のベンチ等がおかれ、いずれもきれいな布製キルトの敷物が敷かれている。非常に努力して工夫されているが、社員寮だった面影が随所に残っており、さらに工夫が期待される。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ケース、机、籐椅子、テレビ、衣装掛け、こたつ、絨毯が持ち込まれ、時計、カレンダー、家族や自分の写真、花瓶に花等が飾られている。利用者はそれぞれ使い慣れた家具や道具を持ち込んでおり、自分の部屋として個性的にレイアウトしている。		